

講演要旨 JICA と NGO の開発パートナーシップ事業での経験を活かした 地域循環共生圏事業

株式会社 山都竹琉 野口 慎吾

昨年、国宝に認定された通潤橋がある水と緑に恵まれた山都町に生まれ育ちました。恵まれた自然環境の中での幼少期の原体験が影響したのか、地元の矢部高校を卒業して熊本県立大学に進学卒業後、NPO 地球緑化の会に所属することとなり、1998年から約8年、東アフリカのタンザニア連合共和国に滞在しまして、村落林業・アグロフォレストリーや稲作事業に従事することになりました。とりわけ2001年から2004までの3年間は、JICA-NGO 開発パートナーシップ事業（持続可能なマルチ式稲作：Sustainable Rice by Mulch system 通称：スリム農法）の業務調整担当としてタンザニア国チョリマ試験場に派遣されていまして。3年間は、稲の栽培のみならず事業の案件形成から進捗確認や業務調整と最終報告に至るまで一連の事業を体験することができた貴重な機会となりました。

タンザニアでの生活は、日本と比べると不便ではありますが、贅沢を求めなければ生きていけましたので「生きていくサバイバルの基礎」みたいなものを体得させて頂いた感じがしております。また、物事がないことからスタートするため、あるのは豊富な人と時間と金のかからない自然資源の利活用で、石灰岩を集めて焼いて焼成し消石灰にしてセメント利用したりするなど原始的な取り組みを見聞したりして、

持続可能な視点からの伝統的な農耕や資源利活用に興味関心がわき始め、日本の恵まれた自然環境や棚田などの農山村の存在意義や重要性を再認識するようになりました。

そこで、2005年から熊本県立大学環境共生学研究科に入学し、内発的発展の理論と実践に関する研究を行いながら、環境バイオマスの仕事を続け、国事業の有機農業モデルタウン事業、菜の花プロジェクトやバイオディーゼル燃料地域利用モデル事業、竹粉事業を立ち上げ、2011年に環境共生学の博士号を頂きました。

2015年から2019年には、文部科学省の知(地)の拠点事業の特任准教授に就任して大学と地域を繋ぐ仕事に従事しました。特に自治体との共同研究や地域振興に資するプロジェクトの立ち上げを行いました。翌年から、熊本高等専門学校の特命客員教授に就任して、2021年から2022年にかけて山都町においてスマート農業実証事業の進行管理役として有機稲作とスマート農業の実証を行い、A評価を頂きました。2022年から2023年には、環境省の地域循環共生圏事業を展開しており、地域内の関係者を繋



ぎ、ステークホルダー間の取り組みの輪を拡大させています。この輪がさらに広がるように、受け皿づくりと担い手育成、インドネシアとの

交流を深めながら、グローバルな展開を目指しています。

講演要旨

地域活性化への熊本県と JICA の挑戦

2023年2月に JICA より出向で熊本県立大学（国際教育交流センター 特任教授）及び熊本県庁（国際政策相談役）に出向しております遠藤浩昭です。JICA では、主に自然環境分野（生物多様性、森林資源管理）の部署を歴任し、ブラジル、パナマ、ウルグアイ、モザンビークでの海外経験、仙台、帯広、那覇での国内経験を有しております。

ご存じの方もいらっしゃると思いますが、JICA は「信頼で世界をつなぐ」とのビジョンを掲げており、世界と信頼関係を築くうえで、日本国内とのつながりも重要視しており、2019年10月に熊本県と JICA は連携協定を結びました。日本は課題先進国でもあり、国内の課題にかかわり、将来途上国で起きうる課題の解決に貢献できるものとして地域共創型事業に取り組んでいます。熊本の課題、例えば「外国人材の増加・受け入れ・活用」「災害からの創造的復興」「チャンス（TSMC など）を活かす取り組み」「県内の南北格差」などを踏まえ、地方創生や多文化共生に貢献する人材育成等に向けた協力や、県内企業の海外展開支援などを推進しています。

この推進役として 2020年6月から出向者が

熊本県立大学及び熊本県庁 遠藤 浩昭

県立大と県庁に配置され、私で2代目となり、JICA 国際協力推進員とともに『『国際化』と『イノベーション』による地域経済・社会の活性化／復興』を目標に、下記の3つの取り組みを行っています。



（1）外国人の活躍 ～外国人に夢とチャンスをも～

日本の経済成長には、2040年に約674万人の外国人労働者が必要と試算されており、そのためには日本が「選ばれる国」になることが喫緊の課題で、熊本も県知事自ら「選ばれる熊本」を標榜しております。これを踏まえ、JICA は「熊本県における外国人材受入・多文化共生のための調査及びパイロット事業」を実施しました。これら事業を地域主導に変換するために、県内の有志企業・団体による任意団体 Kumamoto Kurasu を立ち上げ、外国人材が働きやすく生活しやすい環境づくりを行っています。多くの企

業・団体・自治体の賛同を継続して求めていきます。

(2)イノベーションの推進 ～新たな取り組み・価値の創造(刺激)～

2020年に人吉・球磨流域は豪雨災害により甚大な被害を受け、創造的な復興を支援するためJICAは「ひごラボ」を導入し、課題提案型・官民連携を通じた新しい地域おこしモデルを立ち上げ、多くの人材とネットワークを形成し、19件のマッチングプロジェクトを創出しました。球磨地域振興局との協働でひごラボを各自治体で展開し、高い評価を得ることができました。ひごラボの仕組みを継続・自走化するため、地域人材の育成がこれからの課題となります。

(3)グローバル人材の活躍 ～地域と外をつなぐ「よそ者」の呼び込みと魅力ある活動～

①JICA 海外協力隊訓練前に「グローバルプログラム」を県内で実施し、すでに63名が2.5か月熊本各所で実習をしています。これは地域創生に積極的な自治体や地域の団体で実習するこ

とで、任国派遣後の活動を幅広くそしてより深くできるようにするための訓練と位置付けています。受け入れた自治体の中には、実習生の姿を見て、自ら海外協力隊に志願する役場職員も生まれました。

②熊本県立大学においても熊本と世界を結ぶ人材を育てる「もやいすとグローバル育成プログラム」を実施しており、英語の授業を通じて熊本を学ぶKumamoto Studiesや、カンボジアでのインターン、タイの学生との水俣合宿等を行っています。

③また、大学院では「高度グローバル人材育成プログラム」により、帰国隊員の修士受入や、国際協力に関心のある学生を1年間修士課程で派遣します。今後、インドネシアやタイで環境教育やコミュニティ開発の分野で派遣が期待されています。

最後に、私自身は熊本で一人でも多く地球の現状に関心を持ち、更に国際協力を目指す若い世代を育成したいと熊本に参りました。会員の皆様の周囲でそのような方がいらっしゃれば、是非紹介いただけますと幸いです。

2023 年度の活動の記録

本年度の総会・公開講演会は、令和 5 年(2023 年) 12 月 23 日(土) 13:30~16:00 に熊本県民交流館パレア 9 階会議室 9 で Teams によるハイブリット形式で実施しました。

総会では本連絡会の有菌幸司会長(熊本県立大学名誉教授、熊本大学客員教授)にインドネシアから挨拶をいただき、連絡会の活動、会員異動、その他についての会務報告と予算・会計報告を行いました。

公開講演会では株式会社 山都竹琉の野口慎吾取締役と熊本県立大学国際教育交流センターの遠藤浩昭特任教授にご講演いただきました。野口取締役からは「JICA と NGO の開発パートナーシップ事業での経験を活かした地域

循環共生圏事業」という演題でご講演いただき、遠藤特任教授からは「地域活性化への熊本県と JICA の挑戦」という演題でご講演いただきました。講演内容については本会報に講演の要旨をご寄稿いただきました。

また、12 月 2 日(土)に JICA 九州で開催された九州地区支援団体ブロック会議に有菌会長(Web 参加)と石橋幹事が出席しました。本ブロック会議は第一部の全体セッションと第二部の OV 活動紹介及び意見交換があり、第一部では、JICA 九州からの情報共有と帰国隊員の社会還元活動紹介があり、第二部では OV 活動事例(社会還元等)紹介があり、グループに分かれて意見交換と各県における活動アイデア共有が行われました。

編集後記

「JICA Experts くまもと」は熊本県 JICA 派遣専門家連絡会が発行しています。本年度は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の以前の状態に戻り、通常通りの業務を実施しています。JICA 九州で実施された九州地区支援団体ブロック会議で情報共有された JICA 海外協力隊事業の動きでは、募集状況について情報が共有されましたが、2022 年度と比較すると応募者数も増加し、国際協力についても通常の状態に戻りつつあるとの認識を持つことができました。本専門家連絡会も新規会員の入会がなく、会員減少が大きな課題となっていますが、国際協力が通常の状態に戻れば、熊本県に在住者の専門家としての派遣も出てくると思いますので、入会を進めていきたいと考えています。専門家の派遣等の情報があれば、事務局までご一報ください。(I)

事務局：〒862-8502 熊本市東区月出 3 丁目 1-100

熊本県立大学環境共生学部環境共生学科環境資源学専攻内(担当：石橋康弘)

E-mail：yisibasi@pu-kumaoto.ac.jp

熊本県 JICA 派遣専門家連絡会 令和 5 年度役員：会長 有菌幸司

幹事 徳尾芳道、石橋康弘